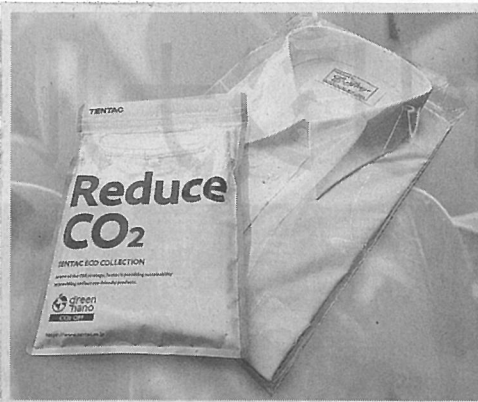


2019年(令和元年)6月14日



テンタック

「グリーンナノCO2オフ」事業拡大

脱プラスチックに対応

タグやラベル、パッケージ主力のテンタック(東京)は、焼却時にCO2(二酸化炭素)の排出を大幅に削減する技術「グリーンナノCO2オフ」を使った事業の拡大に乗り出す。「脱プラスチック」の世界的な潮流が強まるなか、様々なプラスチック製品の生産工程に新技術を活用し、環境配慮型の製品に変える。

グリーンナノCO2オフは、化学吸着剤が入ったナノサイズのフィルムと、グリーンナノCO2オフのフィルムを比較した場合、CO2の平均削減率は67・5%。

「グリーンナノCO2オフ」の技術を品を従来の品と変わらない透明度、強度を訴求する。京理科大学発のベンチャー、アクティブ(千葉県野田市)が同技術を開発した。アクティブが実施した燃焼試験の測定データによると、ポリエチレンを使う一般的なフィルムと、グリーンナノCO2オフのフィルムを比較した場合、CO2の平均削減率は67・5%。テンタックは4月、アクティブと契約し、カプセルを添加したプラスチック原料をペレットの状態で販売できることになった。自社のパッケージやパネル資材への活用に限らず、様々なプラスチック製品メーカーにも技術を訴求して販売する。プラスチック製品に新技術を活用する場合、既存原料にペレットを3%加えるだけ。生産設備を変更する必要もない。ペレット自体に含まれる2種類の薬剤は

「ごく微量」のため、従来のプラスチック製品と透明度、強度は変わらず、「コストもほぼ同等」という。営業活動を強化するため、専門の事業部を立ち上げる予定だ。

3月に中国で開かれたインターテックス・スタイル上海に出展した。「来場者から想定以上の問い合わせがあった」(橋本博巨テンタック社長)とし、「環境に配慮した事業活動をしていきたいという顧客のニーズは高まっている」という。パリ協定や国連総会で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)を指す世界的な機運の高まりが背景にあると見られる。

テンタックは顧客の要望に添え、プラスチック製資材を紙製に置き換えた提案などもしている。一方、プラスチックは加工のしやすさや透明であること、強度といったメリットがあり、需要は根強い。「プラスチック製で、環境配慮型なら大きな需要が見込める」と考えている。

(小堀真嗣)